

平成24年度 岡山県国際理解教育研究会  
備中支部 夏季研修会

上記の会が、8月22日(水)に倉敷市立茶屋町小学校で開かれました。まず、村下英二備中地区支部長(里庄中学校校長)が、あいさつをしました。



今回の発表は、次の4名でした。

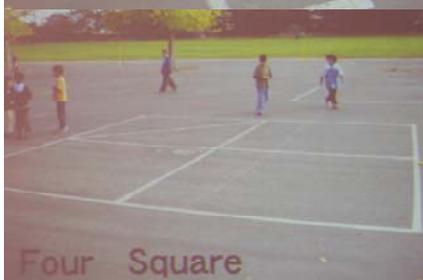
- ① 中原寛之 先生(茶屋町小学校) アメリカ
- ② 今田雅彰 先生(倉敷南中学校) マレーシア
- ③ 増田健二郎先生(多津美中学校) 香港
- ④ 三宅孝明 先生(水島小学校) イタリア

の順番で、約3時間の講座になりました。

まず最初は、会場校の茶屋町小学校中原寛之先生でした。先生は、アメリカのコロンバス補習授業校に赴任されていました。

「コロンバスは、日本の秋田市や盛岡市とほぼ同緯度にあります。夏はからっとして過ごしやすく、冬は乾燥して寒いです。最低マイナス25℃にもなり鼻毛も凍ってしまいました。補習授業校は、現地の学校に通っている日本の子どもが、土曜日に国語を中心に学習に来るところです。私の仕事は、日曜日と月曜日がお休みで、火曜日から金曜日は、土曜日のための準備をしていました。例えば、現地で採用した先生と、メールや電話で打ち合わせをします。主婦や学生の方が主なので、授業に対するアドバイスなどを行います。教室は、現地の学校から借りているため、現状のまま返さないといけません。黒板の掲示物が動いていたら、すぐクレームが入ってしまいます。そのため、写真を撮って元通りに直すようにしていました。

さて、写真の説明です。総合遊具の下に、ウッドチップがあります。これは、ケガ防止のためです。アメリカは訴訟社会で、その対策だと思います。ブランコは、座りにくい構造でした。アスファルトの運動場に、日本でもおなじみのケンパやボールゲームのコートが、あらかじめ書いてある学校が多かったです。





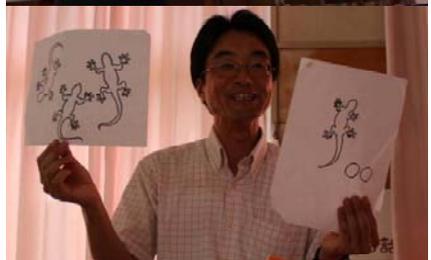
「左のこの写真も、グラウンドにあらかじめ絵をかいています。これは、アメリカの地図です。子どもたちは、陣取りなどをしながら、50の州を自然と覚えていきます。日本の都道府県も、こんなふう覚えてたらいいかもしれません。」



この後、じゃんけんやソーセージという遊びを、参加者で体験しました。じゃんけんは、ROCK・PAPER・SCISSORSの3つ以外に、SPOCK・LIZARDの2つを入れて2つに勝ち、2つに負けるというものでした。また、ソーセージは、どんな質問にもソーセージと答えるもので、笑わせたら勝ちというゲームでした。



次は、倉敷市立南中学校の今田雅彰先生でした。先生は、マレーシアのクアラルンプール日本人学校に赴任されていました。



「これから、現地でBATIKと呼ばれるろうけつ染めについてお話しします。このハンカチは、実際に私が作製したものです。このろうけつ染めは、古くは2～3世紀から行われていたそうです。インド・中国・スリランカ・タイなどでもありますが、特にインドネシアのろうけつ染めは、ユネスコ世界無形文化遺産に指定されています。作り方の説明をします。まず、このような下絵を描きます。これは、現地でよく見るヤモリの絵です。デザインのもとには、ドリアンやバナナやラフレシアの花など、現地で特色的なものを写真にして素材にしました。次に、下絵を布に描いて、それに合わせてロウをぬります。ロウの線が切れていたら色がにじむので気を付けてロウで描きます。それから、色をぬり、色を固定したらロウを落とします。私は、材料や道具をそろえて買って帰ってきたので、ぜひ子どもたちと取り組んでみたいですし、先生方でやってみたい方は、一式お貸しいたします。全てやろうとしたら、時間がたくさん必要でしょうから、下絵だけとかロウを落とすところとか、1場面を切り取って取り組んでも良いと思います。」





次は、倉敷市立多津美中学校の増田健二郎先生でした。先生は、香港日本人学校に赴任されていました。「香港は、1997年に中国に返還されました。それから一国両制度の下において、50年間の資本主義システムをとり続けています。香港の面積は、岡山市と倉敷市を合わせたくらいです。でも、全体の75%は使っていません。700万人のうちの大部分の人は、25%の土地に建てた超高層建築に住んでいます。高層住宅建築は、30～40階から70階に発達しています。地形の関係で、少ない平地は膨大な人口を抱えるため、1平方kmに13万人という世界で1番混んでいる土地になっています。私の友達は、マンションの69階に住んでいますが、出勤時はエレベーターのラッシュがあり、下まで降りるのに10分くらいかかるそうです。マンションの家賃は、シンガポールなどと並んで、世界で1番高いレベルです。だから、写真のようにダブルデッカーと呼ばれる、たくさんの家族と一緒に住む場合が多いです。中国では、四川料理や上海料理、北京料理など有名ですが、香港独自のものはありません。また、宅配料理が盛んで、写真のようにマクドナルドまで宅配しています。香港は、車を持たなくてもいいように、公共交通機関が発達しています。鉄道・地下鉄・バス・タクシー・フェリーなどがあります。特に、2階建てバスや2階建ての路面電車が有名です。香港の高層ビルの夜景は、たいへんきれいです。しかし、スモッグや霧で、見えにくい時が多かったです。また、香港の医療は進んでいて、平均寿命は、日本と並んで世界のトップクラスです。広場では、太極拳をする人たちや、お年寄りのための遊具などが見られます。日本人は、3万人近く住んでいるようですが、東京よりも治安がよくて、子どもだけで塾に行くこともできました。日本人学校は、2つの小学校と1つの中学校があります。中学校では、部活動や試合の遠征や出張などありませんから、日本より落ち着いて仕事に集中できました。全校が集う運動会は、日本人社会の最も大きな行事となっていて、いつも力が入りました。」



手紙  
義援金  
署名



最後は、倉敷市立水島小学校の三宅孝明先生でした。先生は、イタリアのミラノ日本人学校に赴任されています。

「イタリアのイメージは、どんなものでしょうか。わたしは、ピザ・パスタ・サッカー・美術・オペラ・フェラーリ・世界遺産などでした。また、マイナスのイメージは、時間にルーズ・マザコン・スリや泥棒などがありました。もちろんこれらは人によるので、日本人以上に勤勉な人もいました。食べ物は、さすがにパスタの種類が多く、写真のようなメニューを見たらきっと驚くことでしょう。日本人は、よくスリに遭うそうです。きっと、集団で歩く、バックを持っている、おじぎをするなどで、すぐ分かるのでしょうか。さて、ミラノ日本人学校は、100年前に建った修道院を使っています。200人いた子どもたちは、60人に減っています。水泳は、水球用のプールを使って授業をします。深さが2mもあるため、溺れないようにするために一生懸命で、4～5日でみんな泳げるようになりました。最後に、イタリアの見習いたいところは、老人や子どもやハンディのある人に優しい点や、楽器作りやデザインなどで、職人技があることなどです。」

閉会のあいさつは、平川公之助副支部長でした。